

に容喙することを許しません、私の行動がお氣に召しませんでしたら、どうぞ勝手に退却して下さい。共鳴するといふのなら、後からついておいでになるも宜しい、私はそれをも拒否し得る權利を有ちません。私の行くべき道には、何物の障害もない筈です、私は何處までも自我の強い、暴君の如き女です。思ふさま、心のゆくまゝに暴れ廻ります。人が觸れたら人を斬ります、馬が觸れたら馬も斬ります、併し斷つて置きます、神にあらず、佛にあらず私は、やつぱり凡夫の女ですもの、戀もしなくてはなりません、普通の人様のなされまするやうに。かう見えても私はまだ處女ですよ、今、蛹の袋の中から、浮世の風

に中つたばかり、希望にかゞやく私の双眼を御覽なさい、私の前生が見るも氣味悪い醜骸であつたにしろ、そりや私の知つたことぢやありません、先頃亞米利加から日本の魔窟を探檢に來たプリツプ、ベツツといふイヤに丸丸澤山の名の男が、日本の醜業婦は淪落の淵に沈んだが最後、永遠に足を洗ひ得ないのかと、ひどく心配さうな顔をして訊ねたさうですが、やつぱり洋鬼は洋鬼らしい質問をしますネ、うき川竹に身は沈めても、救ふ神がありや立派に一家の主婦として、家事のきり盛りを致します、日本の女はかう見えても、精神まで腐敗しては居りません、附添の警部さん、大高氣焔を吐かれましたとやら、聞く



だけでも胸がすき／＼致します、道理でベッツ君、ジャツパン、ゲーシヤガアル、ナイスベリー、容易に立ち去らうとしなかつたとやら、所謂眷戀の情に堪へなかつたのでせう、随分助平ですワネ。

だから私の前生が何だつて、そんな事ア問題にならんでせう、まア黙つておき／＼なさいよ。私は虚榮の女で御座います、誰が何と仰しやつても否定することは出来ません、元祿のそのむかし、江戸の女と上方の女とが、衣裳くらべの大道中をしたといふ、今なら三面の初號ものですネ、それから見るとどうでせう、いくら現代の方々が虚榮ぢやからとて、迎も、足下へも寄りつけません、あの頃の豪勢さを思ふと、

日本も大した進歩をしませんネ、つまり今の成金の御夫人方は、存外に量見が狭いですよ、尤もこんな事申すと、私は虚榮の助長者として、叱られるかも知れませんネ。

閑話休題、先づちよいと、私の衣裳を御覽下さいませ、何十萬億とも數限りのない鱗片で、こんなに美しい金紋玉條が、天然に織り出されて居ります、アンダアセンのお伽話のは、見えぬ衣です、私のは實際のものです、天下廣しとて、私の衣裳に匹敵し得るものは、斷じて何所にもありませんまい。

さア次ぎには私の目を御覽なさい、京の三條の糸屋の娘ぢや御座い



ませんが、私の目は、優に、野郎共を艶殺するだけの魅力をもつて居ります。頭の前部は、殆ど双眼に被はれて、輝々たる春の光りに映ゆる、正にこれ希望の象徴とでも申しませうか。

けれども私の夫たるべき若き燕？ は、より以上美しい色彩の所有者であることを御記憶下さい、かう申せばとて、決して私は其色彩に感溺するほどに、心の底の見すけた、なさけない女ではありません、若しも貴方方から、見下げられでもしやうものなら、實以て心外千萬、化けて出ぬ限りではありませんよ、いゝですか、侮辱しちや困りますよ。

それにしてもなぜ、私はかうした強い意地を張るのでせう。國勢調査の結果として、日本ではいよく女が多いことに決定しました。さうでせう、可なり美貌の持主でありながら、良縁の遠きに泣く令嬢もおありのよし、醜婦は猶更以て——尤も蓼食ふ蟲もすきくくとやら、必ずしも悲觀するにも當りませう。

あんな立派な旦那様に、奥様は又どうしたといふのでせう、あの御面相ちや實際お可哀相ですワ、てなお噂も、チヨイ／＼伺つて居ります。つまり縁は異なるもので御座んせう。

ところが私の世界では、からもう女が大拂底、いかなヒヨットコで



もおかめさんでも、羽が生えて飛ぶやうによく賣れます、人身賣買は國際間で禁止なされるとやら、私達はつまり男を求めるのですよ、妻定めぢやなくて夫定め、いはゞ見すき選り取り、失戀の何のと、あげくの果には猫いらすの御厄介になつて、口から煙を吐いて死んだり、鐵道の枕木に、首と胴とを別々に置いとく程の馬鹿娘は、ヘン、只の一人も御座いません。

ですから私の世界では、殊更おしろいを塗らずとも、またお紅をささずとも、男の方からはげしい競争をしてかゝります。女に對する一種のデモンストレーションをすることが、私達の世界の通例です、即

ち男性固有の美は、この淘汰作用と見るのが至當でせうネ。

變則に目さめた私が、かう申し上げますと、甚だしく失禮に  
せう、自覺せる新時代の婦人とやらは、女權擴張の一手段として、途方もない、めつさうな、參政權の要求を議會に迫つて居ります、英吉利の前首相アスキイス君なども、此の事件に對しては、可なり猛烈に頭を悩ましたといひます、日本の某代議士が、議會でなされた提灯演説も、お氣の毒ですが、大した權威をなせるものとは信じられません、滅多に着たこともない洋装の、お尻の大きい腰の太い、一派の所謂新進婦人連が、ギヤア／＼キイ／＼論じ合つて有様は、實際あんまり



見ツともよいものぢやありませんワ、あれは要するに一時の熱に浮かされた一種の虚榮に過ぎないのでせう、チャンチャラおかしいぢや御座いませんか。

それにしても女は淺墓な動物です、叱られれば、自分の悪いことを棚にあげて、屹度柳眉を逆立てます、擲られると、目から水をこぼします、同時に咽の笛<sup>パイ</sup>を猛烈に鳴らします、死ねば化けて幽霊になります、枝垂柳の下つた、梓の腐れた古井戸を背景にして、ヒヨロリ！  
髪ふり亂した青白い顔の化け物は、圓山應舉あたりの畫にもよく出て来る圖柄です、男の幽霊といふ奴は、古來あんまり見かけません、た

まにさうした圖様を描く人がありましても、甚だしく感じのわるい、幽霊らしからぬものになつてしまひます。

私の話は、果して遂に脱線してしまひました。口から先に生れたのでせうか、どうも兎角おしやべりで、ほんとに御迷惑様、悪しからずお許し下さいませ。

こゝに私は自分の未來の夫たるべきひとの自慢をして、大いに氣焔を吐いて、大いに皆さんをアテたいのが、唯一の心願であります、さア私と一所にいらつしやい、たまにやそれ位のとをしたとて罰も當りますまいよ、何も私の腰巻をかぶせようといふのぢやなし、いゝでせ



う、いやだと云つて御覽なさい、私は口から毒血を吐いて、屹度貴方を只ぢや置きませんよ。判りまして？

私の未來の夫は、それは／＼實に、男らしい、優しい、立派な人格であることを、先づ以て御想像下さいませ、しかも彼は私のために、固く童貞を守つてくれます、涼しい其目凛々しい其鬚、そして滅多に人に許さない光彩燦然たる其衣裳、麗しき太陽の光線を受くれば、女なら赫夜姫か衣通姫にも類ふべき其華かな衣裳を、只單に私のためにのみ、毫も惜まずに開展して見せてくれます。あらゆる敵を向ふに廻して、大なる危険を冒しつゝ。

けれども私は著しく自我の強い女です、よくいへば意志の鞏固とでも申しませうか、誘ふ水あらばいなんとぞ思ふ仇し心は、斷じて露ばかりも有ちません、色に褪せた小野小町は、衰殘の見苦しい軀を、くづれ卒塔婆に腰うちかけて、來し方の幾變轉に、繰れども盡きぬ、所謂懷舊の情に咽んだでせう、私に限つては、かけてもさうした馬鹿者の眞似は、いやですよ、いやですよ、此の心、濫りに人に許しません、色を賣るのが私の商賣ぢやないんですものネ。

かう申せば私としたことが、どんなに無理解らしくも聞えませうが、兎も角も先づ、貴方の助平根性を解脱して、さて而して後に、私とい



ふ者に對して載きませう、敢て柳下惠になつてとは強ひません、貴方は第三者ですよ、いゝですか、判りまして、私にとやかくと、妙な考へを有つんぢやありませんよ、かう見えても不見轉ぢやアありませんからネ。

貴方は一體どうお考へになつていらつしやるか知れませんが、私の小さい目から見ますと、當節の日本の御婦人方は、すべての點に就きまして、甚だしく間違つた考へを有つていらつしやる様です、ネ、さうぢやないでせうか。

なるほど世の中が進歩して、改造改造、何でもかでも改造の世界で

すもの、いつ迄も女大學の舊套を脱せず、一も二も、御亭主さんの仰しやること、姑御のお言葉を、御無理御尤もで服従なされるといふことも、成るほど確かに考へ物でなくてはなりません、併し思つても御覽なさいまし、貴方方の頭腦が、どの點まで徹底して居るかを、御婦人方のお氣に召すやうな問題ばかりを掲載する、賣らん哉主義の雜誌記事に眩惑した方方は、私の目から眺めますれば、正しく一種の家庭破壊者としか思はれません、私は時勢遅れの鈍物ですよ。

殿方の肩を持つ譯ぢや勿論御座いません、併しどうも男といふ者は、甚だしく我儘であります、家庭生活の單調乃至落寞から、不圖茶屋酒



の味を覺えたが最後、所謂耽溺てなことも漸次はじめるやうです、家の茶づ臺よりや心地がよい、それに對手は、そりや商賣ですもの、山の神とは天地霄壤、チャホヤいつて、旦那様々ですからネ。

勿論私達の世界とは、著しく趣が違ひますから、なアに、天下に女は、噂ばかりぢやないと、乙う色男氣どりで、女房を尻の下に敷きたがります、これは一體誰の罪でせうか、婢があんまり焼餅を焦し過ぎるからぢやありませんか、同じ焦すにしても、狐焦げくらゐの所ならば、却つて興味もあるさうですが、それ以上に進展して、胸ぐらとつての大活劇が、日夜を分かず行はれますと、宿六家へ歸つても甚だ面

白からず、なんだ約らねエ、流連の味を覺えたが最後、ソレ小一さんの御筆ぢやありませんが、夕べしつほり情の雨に、ぬれて色ます朝さくらで、どうも家へ歸ることがいやになる、そこで一家は眞の闇夜、こりや一體誰の罪でせう、御亭主さん、奥様、ナニ喧嘩は五分五分、どちらにも理窟はあります。

さればこそ敢て殊更私は、必ずしも妻君の無理解をのみ鳴らさうといふのぢやありません、勿論、その罪の大部分は、殿方の方に御ありなさるでせう、併しさうせしめた動機、原因の一部を負擔することは、妻君に要求して宜しからうと思ひます、天下の宿六共曰く、ヒヤ／＼



違エねエ〜、やつぱり君は解つとる、もつとやれ〜！

野治ツちやいけませんよ——、最近一部の新しい婦人の仲間に、拒婚同盟とやら、妙なことが發企されたとか申します、そりや私達の世界でこそ、或は成立せん限りもありますまい、併し實はこれも、單なる理想ぢやありますまいか、熱にうかされた噓語ぢやありますまいか。

所謂覺めたる新らしい女が、男子に對する一種の示威運動であると、さやうに見れば、見られぬこともありますまい、花柳病患者の男子は、正純なる女子と結婚する権利がない、女子はこれに對して峻拒する權

利があるといふのですか、イヤ大層やかましい御議論、まことに謹聽の價値は充分に御座りまする。

さりながら御婦人！ それを男子にのみ強ふるといふは、果して當を得たものでありませうか、醫學上に於けるコルレス氏母を絶對に有しない方々ならば、よしや其身を犠牲に供するとも、誰に恥づべきこととは御座りますまい。寧ろ名譽です。

然るに他病にかこつけて、奇妙な専門醫の門を潜つて、人に隠れてサルバルサンの反應試験を受けて居らるゝ未婚の處女の存在する限りは、そんなに口廣いことが申されませうか、侮辱と柳肩を逆にしちや



いけません、私は知らんのです、逃げるのぢやありません、人に聞いた話、卑怯者と笑はれては心外です、兎も角かうした點に於て、大いに疑ひなきを得ない、と私は申し上げるに過ぎません。

最近九州大學の醫科で、三人の少年が、その實父の病氣を救ふべく、所要の血液を提供しました。若き者の血漿を、重病者の血管に注射すれば、可なり衰弱してゐる危篤の人も、忽ち氣力を恢復して來る、所謂功驗神の如しであるさうです、九大醫科では、血液研究の資に供するとて、何グラムかの生血を、いくらやらで買ひ受けるといつたやうなことも聞いて居ります、血の氣の多い人は、宜しく買つて貰ふべ

しですネ。

ところがこゝに不思議なことには、同じ父の子であつた筈の、其三人のうち一人が、全く別種の血液を有つて居たといふ、新らしい奇現象が檢鏡の結果に立證されました、さアかうなると一大事件です。風波が起らずに置きませうか、道德問題に亘りますから、私としては詳しい説明を避けなければなりません、夢でした、忘れしました。

私は話頭を轉じます、無理解なをんな私は、思ふさま男子の方の肩を持ちました、女同志のいがみ合ひは、あまり見ツともよいものでは



ありません、他人様のことをかれこれと云はうより、寧ろ私自身のこととに論及致しませうか。

誰にも許されない、只私の有ち得る金紋玉條の、美しい四の翅を揮つて、従横無盡に飛び廻る愉快さ、得ならぬ香氣は私の五體に充ちて居ります、絶世の美人が、假りに御さつを澤山召し上つた後の出来事を、一寸考へて御覽遊ばせ、著しく艶消しになるぢやありませんか。私は滅多に、イヤ絶対に物を食べません、單に花の蜜の小量を口にすれば、殊更飢いとも思はないのです。

著しく敏捷に出来て居る私の體は、脈の搏動も随つて著しく多いの

です。それほど忙しい私の體ですもの、一分も一秒も、同じ場所にとつとして居ることが出来ないで、イエ出来ないばかりでなく、それが大きな苦痛でなくてはなりません。活動を天職として生れ來つた私です、甚だ愉快に堪えない譯です。

何の用があつて、そんなに活動するかと御尋ねになります。私の天職には二つの區別があります、即ち私はその二つの爲めに、日中の約十時間ばかりは、殆ど寸刻の安逸をも許されません、先づ其一つといふのは、種族の繁榮、碎いて申せば産卵の義務であります。

膨大せる私の腹部には、殆ど他の器關を壓迫して、堪へきれない程



の、夥しい卵が包藏されてあります、雄性の愛を求めて、生殖の實を擧ぐることは、私それ自身が、此の世に存在する、最も大なる有意義の事實でなくちやならぬと固く信じます。

そんなに苦勞して、役にも立たない卵を産んで、何にするかと御尋ねになりませう？ ハイ、そりや此方から貴方々に御訊ね申したい要件ですよ、かう申しては、いと失禮かも存じませんが、人間の御婦人方は、一ヶ年を通じて殆ど十二三回宛、週期的に夥しい卵を産み落して居ながら、御自分では一向御氣づきにならない程、のんき千萬な御方も御ありのやうです、甚だしく僭上の沙汰らしく思召されませうが

私はこれから眞面目になつて、暫く學問的の見地より、正確なる意見を申し述べてみようかと存じます、どうか謹んで拜聴あらんことを、特に希望いたします。

人間は申すに及ばず、すべての生物の生活を通觀致しますれば、正しく食つて大きくなつて、産んで、而して死ぬ、たゞこれ以外に超越するとは、先づ不可能であらうと思はれます、貴方方は思想も圓熟していらつしやいますし、頭腦も大いに進歩して、著しく徹底せる御考へを有つて御いでますから、或は私の言論に對して、小生意地と思



召すかも知れませんが、まアさつと一通り御聞きに達しまする、一寸水を一ぱい飲みますよ、咽が乾きますから。

さて人は、何のために此の世に生れて来たのでせう、かう訊ねる者がありましたら、貴方方は、どういふ答辯をなさいますか、働く爲、それにはどうあつても食はねばなりません、食ふは働く原動力を得るための、餘儀ない作業？　ヘツ、そりや嘘でせう、食ふために働く、それが偽りなき告白ですよ、人前を繕うて心にもない嘘をつくことは御よしなさい。

左様！　食ひたい爲めには、いやな職業も見つけなくちやなりません

まい、市の職業紹介所に、毎日々々蟻の如くに集ひ来る人、ありやみんな食ひたさにでせう、働きたい爲めだなど。よくもく、そんな白々しい事が申されますワネ。

さアかうなりますと、私は更に、第二の質問を出しますよ、よろしいか、なぜ貴方方は、そんなに食ひしんぼうなのでせう？　御腹がすいてたまりません、フーン、なぜお腹が空きますの？　成長する必要があるから、さうですく、貴方の答へが當りました、上出来満點その通りです。これぢや何だか小學校の先生と生徒の問答のやうで、一向面白くもありませんネ。



ところで食つた結論は、大きくなることにあります、併し生物界の法則と致しまして、どこまでもく、無限に大きくなることは、どうあつても許されません、人間の丈にしても、五寸や一尺の差こそあれある程度まで延びたが最後、それで成長は休止してしまひます、成長が止まれば、食ふ必要がないかと申すに、決してさにあらず、命のあらん限り、大きくなりたがります、體の分裂！ さうまでしても食ふことに努力するのが、即ち一般生物の通有性ではありますまいか。

體の分裂！ 甚だしく巧妙な言葉ですが、つまり子を産むことですね、自分一人の力では、いくら餘計に食つたかとして、其分量は高の知

れたものです、子を産み、孫を産ませして、種族が繁榮して來れば、それだけ餘計に食ふことが出來ます、何といふ意地のきたない奴等です。

食ふは産むため、産むは食ふため、どちらが主とも客とも申されません、いはゞ禪の拍手の聲、結論は？ 個體成長の範圍を超越せる成長、それが取りも直さず生殖であります。

人類をはじめと致しまして、主要なる高等動物の生殖を見ますと、先づ其一步に於て、雌雄の接觸を必要條件として居ります、これには各國の學者間に、古來種々の異説を立てる人があります、併し私は天



の妙理、神祕の扉として、寧ろ其秘鑰を人の子の手にせしめず、其まま不可解にして置きたいと思ひます。

卵子と精子とが、或靈氣に催されて、互に接近すべく最大の努力をなせる一事は、これ正しく戀愛發生の初期でなくてはなりません。生物の個體が、かうした戀愛を基調とせる出發點スタートに立つた以上、青春の血、胸にもゆる若き人達の自由愛に對して、どうして第三者から横槍が入られませう、私は此の意味に於て、囚はれたる舊世界の因習をば、或程度まで破壊——これは語弊があります、やはり改造しなくちやなるまいかと思ひいたします。

何とやら仰しやる教授プロフェッソルが、或る女流歌人と戀に落ちた結果として、其職を免ぜられたといふ近時の出來事も、決して目を皿にするほどの問題ではあるまいと思ひます、さうでせう、大學教授や博士だとして、等しく人間ですもの、田夫野人と、其間に、どれだけの差異がありませんか、五官の働きも、御面相も、一點異つた所を見ないぢやありませんか、年中むづかしい顔をして、器械ばかりひねくり廻して、狭苦しい研究室の中で、コツ／＼仕事をしてる人、それが理解ある新らしい女と情意投合したからとて、そんなに口やかましく論じるには當りません、餘りの輕跳さ、ちと御慎みあつて然るべし。



またある御醫者の一人娘が、思ふ人と一緒になれないのを悲觀して猫いらすの御厄介になられたといつて、世間ではえらい喧しいこと、さも奇蹟かと囃し立てたさへあるに、あれから以來猫いらすの自殺者が、恐しく増加したといふ、むかし藤村操といふ青年が、日光の、華嚴瀧へ飛び込んでから、やつぱり其れが一つの流行になつて、いろ／＼の意味で瀧壺往生をした馬鹿者があります、つまり一種の傳染ですネ。

貴方方は小説の浪子に同情します？、又かうした博士だの名士だのそんな肩書に眩惑されて、如何にも物珍しくチャホヤ仰しやる、とは

あまりにお心が見えすきますよ、あまりに人間離れな仕方ぢやないでせうか、等しく親の子として生れた細胞の集團ですもの、そりや戀もありませう、涙もなくてはなりません、歌もまた有るでせう、少しは物の道理を考へて、靜かに口を利いて欲しいと思ひますネ、とは申せ、私は道德の破壊者では御座いません、貴方方の社會に水をさして獨りで喜ぶやうな悪魔サタンでは勿論ないので、要は今少しく冷靜に、理性を働かせたらどうでせう、輕擧をお慎みなさい、只かう申すに過ぎませんよ。

慾の皮の、どこまでもつつばつてる社會では、よい時ばかり連れ添



つて、少し左前になつたが最後、俄かに秋風立たせて、未練もなく手を切つて飛び出すやうな、不人情の不貞腐れもあるときゝました、窮極する所は食ひたい爲めですネ、併し金と縁との切れ目が同時刻だなどときいては、例のブリツプベツツさんに對しても、あんまり大きな口は叩かれませんネ。

勿論殿方の方にも、缺點がないとは申されませんが、疊は新らしいのに限るなんて、随分失禮な言葉ですネ、生物と無生物とを混同しての御主張は、實以て聊か傍痛く存じます。

お前とならば何所までも、箱根山、日光の華嚴の瀧、北極のオーロ

ラ見ゆる、熱帯のやけつく砂漠、まだく、もつと大きく、地獄の底の釜の中、いゝ加減に申戯もおよしなさいよ、併し死ぬ迄、共白髪、わしや九十九までは愚か、結論が心中して、夫婦一緒に葬式を出す、後は階老同穴と来る、もしもさうした天分を有つて生れた動物があるときいたら、貴方方は慚死しなくちやなりません、有ります、それが、事實あるのですからおきゝなさいよ。

鶏の寄生蟲として學者間に知られて居る一種の蛔蟲は、名は知りませんが、雌雄相接したまゝで、一生離れたためしが御座いません、結ぶの神のいたづらも、こゝまで来たのちや聊か残酷ではありますまい



か。

御覽なさい、腹面の中央部にある雌の生殖孔は、雄の腹端にある器  
關と相接して丁字形をなし、殆ど膠でくついた如き状態にあります。  
試みに、もの好きな人が、それを取り離さうとしたならば、蓋し驚く  
ばかりの裂傷を生じて、兩者共に斃死するの外ありません。

此の様に雌の産卵孔が、雄のために、全然閉塞されて居りますから  
よしやそれが成熟しましても、親の體外に脱出して任意の行動を採る  
べく不可能で御座います、果して然らば彼等の夫婦は、愛の結晶たる  
その胎内の子供を犠牲に供してまでも、猶かつ極度の膠着を繼續しや

うとするのでせうか。

否々、それでは自然の法則に適合いたしません、充分に成熟した幼  
蟲は、餘儀なく、母體の一部分を破壊して、急速に體外に送り出され  
ます、親の體は？ 勿論此の意外なる急變と同時に斃れてしまひます  
かく運命づけられた雌雄は、即ちこゝに天壽を全うした譯で御座いま  
す。

然るに子は又忽ち雌雄結合して、孫の暴力？ の行はるる日まで、  
風が吹かうが雨が降らうが、斷じて離れようとは致しません、尤もか  
ういふのは特に著しい一種の例證、眠けさましの材料ですよ。



また話頭を轉じます、西洋婦人の大部分は、殆ど腋臭患者であると聞いて居ます、それが彼等の、やたらに香水を利用する第一義でなくてはなりません、即ち腋臭の香と、香水と、兩者然るべく混合して、そこにいふべからざる一種微妙の作用を誘致せしめるといふことです。

ところが日本の御婦人には、西洋人ほどに著しい腋臭患者を認めません、併し香水の使用量は、敢て彼等に遜色を見ぬといつても宜しいでせう、してみれば日本人は、その根本に於て、香水の使用法を會得しないといはれても仕方がありますまい。

由來香氣は、雌雄牽引の手段上、最も著大の働きを有することは、蓋し争はれない事實であります、私は自己の有てる腹端の香毛によつて、任意に對手を招聘するだけの魅力を興へられて居ります、イヤ、大層むづかしい議論になりました、水を一ぱい下さい。

貴方今朝の新聞を御覽でしたか、イ、エまだ見ません、ホ、又何か面倒なことが起りました？ 本當に氣がいら／＼しますワ、ハイ、筑紫の女王が情夫の許へ逃げたツて、ア、何だと思つたらそんな問題ですか、そりや何の不思議もないでせう、當然有り得ることですあネ、要するに過渡時代の小さな産物ですよ、名門富豪の出來事ですつてそ



んなにキヤア／＼騒ぎ立てるのは大人氣ないでせう。

さはさりながらあの方は本當に御氣の毒ですよ、山と積まれた黄金に眩惑して、世間見ずのデクの坊に身を委せた金色夜叉の宮さんよりも、考へて見りやアもそつと不運でしたわネエ。

私の狭い見解では……失禮ですが、家庭の紛糾とやらいふことも一面から見ると御亭主さんの解らん爲めです、濫い、人間味のある生存を繼續することが出来れば、大抵の女はそれで屹度満足すべき筈です。顔や姿や金の爲めなら、高尾は當然、五十四郡の若殿様に靡いたでせう、彼は遊女ですよ、いゝですか、遊女既に然りでせう、況や理

解ある貴女に於てをやです。

愛のない結婚、金力？ そんな物が何になります？ 馬鹿にしてらア、全人格を無視されてさ、男の爲に蹂躪られたら女だつて尻をまくりますよ、ダイヤの指輪リングを、よし五つ六つ箝めてみたところが、さて秋の夜長をしみぐと、心落つけてじつと内省したら、自己の永生に疑惑を抱くは必然ですよ、それもあの方は十年努力したといふぢやありませんか。採られた手段行動の、善悪可否は勿論私に解りません。あゝした手段を選ばねばならぬほどに、行詰つて居たかも知れませんが、何とか工夫はなかつたものでせうか、併し愛の前には富貴も土芥



に等しと、弊履の如くに抛ち去つて、眞の世界に更生せんとする、其勇氣は何所までも買はねばなりませんネ。えらいですく、舊道德の破壊者、新舊思想の衝突、何とでも仰しやいまし、意氣の發露は全く感服の外ありません。天下の男曰く、怪しからん、俺アそんな女房は眞平ぢや。

わびぬれば、名もなきものに手をつきて、あやまらされしおそろしの夢、恐らく實感でせう、野獸の血に飢えし姿、ゾツと致します、かよわき小羊はそんな夢も見た日が屹度ありませうネ。勿論これはイソツプ物語の想像です、問題外です。解りまして、穿き違へちや困りま

すよ。

釣り合はぬは不縁の基、むかしの人は存外えらい事をいつてますよ、千兩箱杉なりに積んだ擧句は、仕たい放題のことがしてみたい、これが男の終局の目的、尤も積まぬ先から積んだつもりで、馬鹿な眞似をする間拔野郎もあります、おかげで狹斜地は不夜城の盛觀を呈するさうです。

鶴嘴掴んだ當年の、松の瘤みたやうな手の指も、どうやら此の頃では、赤ぎれの痕もなくなつたものゝ、眞皮の硬化は容易に復舊の見込みないのに、ゴルドの太輪を無性に押しはめて、二度と拔けない痛さ



を我慢する、あの馬鹿面を見ようものなら、本當に吹き出したくなり  
ますよ、但しこれは別人の批評、さうした連中が現代ざらにあります  
自動車の泥はね返す成上り者、見るから癩ですワネ。馬鹿をいへ、乗  
りたくも乗られない癖に、ホ、、、何とでも、口は調法ですからネ。

胡北の雪に踏み悩んだはむかしの王昭君、モンゴリヤ種の毛だらけ  
は、綿羊ばかりかと思つたら、自分の御亭がそれなんでせう、あれこ  
そ本當に人身御供、泣いたつて追かず、今時にあらう道理もない話。  
これは支那で名高い傳説。

名門に生れた人だけに、女の道は何でも、無智な御亭主に理解を求

めるには、あまり距離がありすぎます。どこまでも奥様萬能ならまだ  
しも、金のための大盡扱ひ、高くもない鼻の先で、フ、ンとあしらへ  
ば、金の欲しい奴アみんな土下座する今の世の中、女房は女房らしく  
召使は召使らしく、區わけをして置けばよいのを、兎角かういふ手合  
に限つて、其點ばかりが一視同仁に来るんですから、イヤハヤ迎もや  
りきれたものぢやありませんワ、逃げ出すが本當でせう、過渡時代の  
女にそれ式のことの出来ないでどうなります？ オ、強き者よ、汝の  
名は女なりホ、、、。

但し但し、いゝですか、但しですよ、これは私のあて推量、こんな



議論が成り立たうものなら、貴方の御家庭にも、恐しい風が吹きませう、波も恐らく立ちませう、家内安全が何より、餘計な批評は、さらば西の海へサラリく。

挿話を申しませう、聊か方面違ひのことです、急轉直上今度は宗教問題に觸れます、貴方方は何でもよく會得していらつしやいます、金剛界曼荼羅の三昧耶形さんまいぎやうに表示された、あの金剛愛菩薩の象徴を御覽になりました？ 眞言宗では老年にならなきや授けないと力りきんどる、あの五祕密中の一人、どうで御座いませう、あの圖柄が、如何に濃厚に戀愛の極致を發揮して居ることよ、かう申せば、或は仁和寺あたりか

ら、目の玉が光るかも知れませんが、蓮華臺上の二つの五銚杵が、頭で結んで足らず、御丁寧に足でも結んだなどは、實際うまい創作ですワネ。

あゝいふものを見せられると、誰も彼も、どうしても、密教々理の奥ゆかしさを感じずには居られませんまい、幽玄なる弘仁美術の哲理の前に、心からひれ伏さずには居られますまい、ホ、ホ、ホ、えらい氣焔、柄にもない、お許し下さいませ、實を申せばこれも人様からさいた迄、根が請賣ですもの、深いことは知りません、存じません、それが所謂君子の道ですワ、それとも深く知りたいと仰しやるなら、さし



づめ室生<sup>じろふ</sup>あたりに走ることですネ、五尺の髪を切つてさ、クリ／＼坊主の、そりやおいやでせう？。

お話し申し上げたいことは、まだ澤山あります、けれども私の體なるものが、同じ場所にばかり、じつとしてることを許されません、もう後口がかゝつて居るのです、長からぬ花の命を、有効に利用すべく即ち體の分裂作業のために、大きく申せば植民地の開拓に、懸命の努力を強ひられて居ます、失禮ですがこれでお暇をいただきます、お名残り惜しい、そりや世間並のお世辭でせう。

やがて來たるべき私の最後？　ハイ、衰殘のむくろを卒塔婆に腰か

くる、小町の古式を學びたうありません、さりとして、さりとして私や、うき草風吹くまゝに、流れ流れて涯しらず、晝は旅して夜は夜で踊る末はいづくで果てるやら、それも甚だしく卑怯です、結論は、羽鳥さんへ参りまして、華々しく銀化される豫定ですよ、ナニ、御心配下さいますな、渡る世間に鬼はなし、では又御縁がありましたら、さよなら、グツドバイ、手を握つちやいけません。



蝶

終

## 現代病弊論

吾人は何の思ふところあつて此の書を著したであらうか、他意あるにあらず、しばらく現代の病弊を剔抉して早く禍根を断たんとするにある。頭腦明敏、技術熟練の外科醫の執れる晃々たるメスは、倏忽一閃の刹那直によく人體の五臟六腑を抉出すると雖、しかも吾人の揮へる筆のきツ先は、往々にして過誤と脱線とを保障し得ない、これ豫め讀者の諒解を求むべき點でなくてはならぬ。

歐洲の大亂平和を告げて以來、さながら洪波の如くに八方に襲ひ來



たれるものは改造の叫びであつた。渾圓球上のことすべて、此の二字中に盡されしやの觀がある。あゝ果してこれ眞の叫びか、しかも歐米先進の採れる改造方針の、果して當を得たるものであらうか。更に吾人は其悉くを收容して可なるべきか。再考し三思し、而して決を採らねばならぬ、徒らに淺薄奇抜の思想に眩惑して、眞の改造の本旨に悖らば、それこそ飛んだ馬鹿を見ぬ限りでない。

日本思想界のこと、昨非か、今是か、吾人これを知らず、さりながら喜ぶべきもの少なからぬと共に、憂慮すべく、悲觀すべきこと頗る多きを如何、乞ふ試みに其二三を記さしめよ。

廟堂の臣僚、百年の大計果してありや、自黨の盛衰消長をのみ念として専ら國政をサボリしは藤原内閣であつた、綱紀の紊亂其極に達し官邊しきりに縲紲の人を出して收拾すべからざるものありしも亦、藤原内閣であつた、一千年後の今は知らず。

實業界の現状は如何、實業とは眞に名のみ、主として虚業によつて一攫萬金を夢想し、泡沫會社を簇立せしめて獨り榮華の夢に耽る、獨逸のモットーを知らずや、三年俟て！と、何ぞ其意氣の旺んたる使節ゾルフ博士の説に聞くも、所謂ゼルマニズムの意氣の勇盛、まことに歎賞の外なきものがある、軍國日本の標語を甘受して、歐米に遠か



らんとする即今、諸君如何の感がある、國運の消長は、獨り劍光硯花に俟つべきものではない。

教育界の有様は如何、文教の府、多くは退嬰主義に流れ、姑息なる資金運用の手段にのみ専ら腐心して、動もすれば國民の基本教育を蔑視す、しかも教員の資質低劣にして常識を解するもの少なく、品性陶冶の大本を忘れて偏に今日主義を固守する。

宗教界の有様は如何、所謂善智識なる者、殆ど金錢の奴隸と化して民衆化導の本務を忘失し、圓廬の人自ら酒池肉林に溺没して精神の修養地を拂ふ、殿堂や經典や、無爲徒食の乞食坊主が巢窠となり糊口の

資となる、亦多くいふを耻づる。

次で學界を一瞥するも、其大部分は舊人物のみ、古きノートを口述の材料となして、何の新味の齋らし得べきぞ、しかも定年を過ぎて猶且つ教授の椅子に戀々たるもの比々皆然り、舊人間語るに足らず、偶々一部の新人あれども、殊更虚名を貪らんが爲めに、心にもなき奇警の言説を敢てし、青年未熟の思想を惑亂せしむるに過ぎぬ。

これ等の人々、多くは度量狭小、徒らに蝸牛角上の小鬪を事として協力一致深淵の遺珠を探ることを忘る、これをかのダルキン、ウイルヒョウ等の友情と寛宏とに見る、眞に天地霄壤の差あるを知る。



社會の上級に立ちて、國民良化の指導をなせるもの、概ね此の如きの時、更に民衆の歸嚮を觀すれば、主従師弟の關係全く地に委し、權利義務を穿き違へ、専ら自我をこれ事とす天神もし此の混沌を見れば、或は天安の河原の會議となり、或はヌアの洪水を促し來たるやも知れず。

さりながら此れ實に過渡時代の病弊のみ、此の傾向の惡化を認めて徒らに寒心し恐怖し悲觀するは、固より識者の採るべき手段ならず、社會の上級に立てる者、國民指導の任にある者、宜しく民心の嚮ふ所を察知し、これを良導すべきの手段を講ぜよ、堤を決せんとする濁水

の流れは、斷じて止むべからず、寧ろ其奔流のゆくがまゝに委せて、よし一部の堤防を犠牲とすべきも、徐ろに善終の策を講じなければならぬ、吾人の一書、徒らに嘲罵と皮肉とを、これ事としたるに似たれど、實は一片赤心の發露のみ、牡牛角上の蚊聲、眞意知る人ぞ正に知らん。妄言當死。



天平時代物語

木村小舟著

藤原時代物語

(圓五金各價正)

大正十年 二月三日印刷  
大正十年 二月十日發行

蝶 奧付  
第一版(自一至一〇〇〇)

不許  
複製

正價金壹圓

作者

木村定次郎

發行者

東京市神田區西小川町二ノ一  
株式會社 東亞堂

右代表者

取締役社長  
木村定次郎

印刷者

東京市麴町區飯田町二ノ五〇  
猪木卓二

發行所

東京市神田區  
西小川町二ノ一

電話九段二〇〇七  
振替東京一七一

株式會社 東亞堂

—(部刷印堂亞東)—



東亞堂と其出版物に就て

- (一) 用紙は力めて精良の品質のみを選定致します。
  - (二) 印刷は出来得る限り新活字の鮮明を期します。
  - (三) 製本は優美にして堅牢ならしむべく努力致します。
  - (四) 内容は力の及ぶべきだけ充分に吟味を致します。
  - (五) 装幀は或物は華麗或は質素而も感じよく致します。
- 將來の出版に對して、大略右の如き方針の下に事業を進め當代一流の大家に囑して、それぞれ専門の著作を乞ひ受け、其挿畫の入るべきものは必ず之を挿入し、本文の校正を嚴密ならしめ、誠實と親切とを標語として、修養處世、文學美術、家庭實用、少年書類に至る迄、漸次大成せしめて、各位深甚の御厚意に反かざるべく、一層の御助勢を希ふ次第であります。

東京市田區内小川町二ノ一  
電話九段二〇七  
電話九段一〇七

株式 東亞堂 出版部

敬白







終